

新しい公と共

その理念と実践



道守九州会議
日本風景街道九州ネットワーク

北九州市道路サポーター制度

北九州市では平成17年10月より「道路サポーター制度」を創設し、道路の清掃美化、花壇の手入、道路施設の異常通報などの活動をいただく団体等に「道路サポーター」として登録いただき、行政と市民が一緒になって美しいまちづくり推進しています。

発足時の12団体（500名）から現在では約135団体（8,300名）へと大きく活動の輪が広がってきています。

道路サポーター制度の紹介

- 対象団体
 - 道路清掃美化などのボランティア活動を行う10人以上の団体
 - 活動区域100m以上
 - 年3回以上の活動

市が維持管理する道路



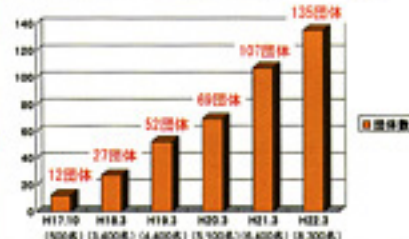
- 活動内容
 - 道路清掃美化及び道路施設の点検、異常の通報とともに、花壇の手入れなどの景観美化活動

道路サポーター活動へ市からの支援

- 清掃用具の支給・貸与
 - ほうき、かご、草子など清掃に必要な用具を支援
- 花壇の支給
 - 清掃活動とともに花壇の手入れも支援
- 墓めたごみの回収
 - 青瓦活動保険への加入
- 放水機の設置
- サインボードの設置



美しいまちづくりの輪が広がっています



道守通信 編集後記

「戦艦武蔵」などで知られる作家吉村昭さんの歴史作品が好きだ。「生麦事件」など、わが故郷・薩摩がからむ幕末、明治維新の大変動を史実に忠実にかつリアルな小説化はこの作家の魅力である。特に気候、風景の細部のこだわった描き方は、この作家の「取材力」と「調査力」の高さを感じさせる。

さて、本題。彼の対談集をめくっていたら、「道守」に絡む発言を発見した。吉村氏によると、江戸幕府は元禄のころまで街道、港湾を全力で挙げて整備した。今でいう公共事業への集中投資である。整備が一段落すると、教育と文化に重点を移す。道路についていえば「道路は大切なものだ」という「公」意識の植え付けを徹底する。道路管理には大変な金がかかる。だから道路を傷めるようなことは絶対許さない。それは徹底していて、大八車による荷物運搬は禁止。馬牛の背に荷物を載せて運ばせる。道に落ちる糞は通りに住む人が掃きとり田畑に肥料として捨て、そのあと水をまいて清潔にする。

江戸の町では、走ってはいけぬ。許されたのは、飛脚と火消しだけ。下駄をはいて街道を歩いたら不届き者としてお咎めがある。それほど道を大切に心が華道、茶道の言葉を生んだ。

同じころのヨーロッパでは、道路は馬車が行きか、馬糞、さらに人糞、ゴミであふれ、下水道並みだったと聞いた。都市環境は悪化し疫病の大流行を許した。ドイツ人ケッペルは長崎と江戸を何回か往復しているが「日本の道路はいかなる国よりも優れている」と書いているという。そして、今、道路に任や家庭ごみまで道路に「ポイ捨て」する。「公」の意識が消えてしまっています。

今回の道守通信は特別号として「新しい公と共」を特集しました。昨年、宮崎での、みちづくし大会で主テーマに据えられましたし、鳩山首相も施政方針演説で「新しい公共」を強調していました。我々の道守活動は「新しい公」の先導的実践活動だと誇りを持って言えると思います。田上長崎市長の特別インタビュー、榎木代表の論文などのほか、論議を深めるため座談会を2本特集しました。道守活動や風景街道づくりをさらに進めるため、活動の合同に、この別冊を材料にして「新しい公と共とは」を話し合っただけならば、大変幸せです。ご支援いただいたアサヒビール株、パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社心からお礼申し上げます。（玉川）

九州道守の 夢、未来

「新しい公」って何だろう。

九州の道守たちは自問しています。

活動の現場で考える「新しい公」は――。

足元からの景観づくりをめざして

福岡



北原白秋で知られた水郷柳川は年間100万人を超える観光客が訪れます。道守柳川ネットワークはこの閑静な城下町のたたずまいを足元の景観から守って行こうと年3回、行政と共働して古里の道の清掃を行うことからスタートしました。

5年前、この清掃活動に取り掛かったころは割



刈払いの草は伸び放題、背丈ほどもある雑草は電動草刈機の力を借りなければ手に負えない場所もありました。今ではその道筋も舗装され市民の散歩道として親しまれています。歩道が綺麗になると草木の緑が水面に映えて水郷を柔らかく引き立て、行き交う人々の表情まででんで見えます。当初13団体200人くらいの参加者だった道守清掃も今では32団体、600人以上の皆さんの協力を得るようになりました。

柳川観光のメインはどんこ舟に揺られ、ゆつたりと掘割を巡る川下りですが、市は年1回、2月に掘割の清掃のため水を落とし、川底にポイ捨てされた空き缶や瓶、粗大ゴミなどを一斉に取り除く作業をします。道守はこれに合わせて同じ日に、市のクリーンアップ作戦と並行するかたちで道の清掃をすることになりました。これは水郷の景観を川と道の両面から美化しようというひとつの市民参加のかたちであり、「新たな公」とはこのように市民と行政の連携をタイムリーに図っていくことではないかと意気込んでいます。

さらに新しい年度の抱負として、他のグループとの交流や、道に關する学習会、「通り名」の見学など街づくりに貢献できる「新たな公」のあり方を探って行きたいと願っております。

〔道守柳川ネットワーク代表 山田三代子〕

北九州



8200人のサポーター

北九州市では、行政と市民の協働による美しいまちづくりを目指して、平成17年10月に「北九州市道路サポーター制度」を設立しました。

この制度は、市の管理する道路の清掃・美化を行うボランティアの協働に、北九州市が清掃用具や花苗の支給、貸与、サインボードや散水栓の設置等の支援を行うものです。12団体、513名で始まった本制度も、現在(日22)では130団体、約8,200名の皆様に広がっています。



この道路サポーターの活動を通して、まちが美しくなっていくだけでなく、希薄になったといわれる地域住民の交流を活性化し、人づくりや地域づくりにも繋がるものであり、まちづくりという大きな意味においても、重要な取り組みだと思っています。本市では、公園や河川においても、道路サポーターと同様の取り組みが以前から行われているため、関係各課と連携をとりながら、このような素晴らしい活動をさらに広げ、美しいまちづくりを進めているところです。

平成21年12月には、「美しい世界の環境首都シンポジウム」を開催し、お掃除で有名な松居一代さんの講演会や、道路、公園、河川の清掃ボランティア活動者によるパネルディスカッションを行いました。また、年一回、道路サポーターが一堂に会する総会も開催しており、活動団体の交流や情報交換を通じて、今後の活動がさらに楽しく続けていたただけるお手伝いができればと思っています。

市としては、道路など都市基盤の整備や維持管理はもちろんのこと、今後とも、道路サポーターの活動など、市民の皆様と一緒に環境首都を目指し、さらに美しく元気なまちになるようがんばって行きたいと考えています。

〔北九州市〕